

演劇×コミュニケーション

演劇から学ぶコミュニケーション講座

コミュニケーションにおいて 想定される課題

・職場内のコミュニケーション不足

・職員と市民のコミュニケーション不足

・コミュニケーション不足による、職場満足度、市民満 足度の低下

ワークショップ概要

コミュニケーション能力は、市職員として円滑に業務を行う上で必要不可欠な能力です。コミュニケーションが円滑に行われないと、職場満足度が低下するだけではなく、市民満足度も低下してしまいます。

考え方や受け取り方、価値観などは人によって異なりますが、演劇的 手法を用いて、異なる価値観を理解し、受け入れ、自分の価値観とすり 合わせることができるコミュニケーション能力を身につけます。

講師

平田 オリザ 氏 (演出家、劇作家、青年団主宰)

対象者

講座参加者 丸亀市役所職員 19人

実施日

2019年7月24日(水) (1回実施、2時間/回)

ワークショップ内容

実施内容	詳細
講座全体の説明	参加者である丸亀市役所職員に研修の目的を説明。
自分と同じ答えの 人を見つける	好きな色・好きな果物・丸亀市の名物・今行ってみたい国・誕生月 などについて、自分と同じ答えを持っている人を見つける。
相手を意識する	参加者は2人組になり、手を使わず相手に体重を預けて同時立ち上がる。参加者は3人組で縦一列に並び、真ん中の人を前後に押す。
/ 認識やイメージの 違いを理解する	1~50の番号札が配られる。配られた番号が1に近いほど大人しい趣味、50に近いほど活発な趣味を持っている設定とする。お互いに、番号以外の情報を伝え合い、番号が近いと思われる人同士でペアをつくる。
役割を演じる	参加者は1~2分程度の短い台詞の台本に沿って役割を演じる。
解説	発話者がどのような意図をもって、その言葉を使っているかという コンテクスト(文脈)について解説。







ワークショップ参加者の声

【参加者の声】

- ・人によって物事に対する基準が全然違い、それを少しで も自分と照らし合わせることが大切だとわかった。
- ・コミュニケーションは相手のことを理解しようとする姿勢から始まるということが分かった。
- ・ついつい相手が分かっている前提で話してしまうので、 意識して改善したい。
- ・市民にとっての基準と、行政との基準も違う。**自分の基準は市民の基準ではない**。今までも意識はしていたが、 根底では変わっていなかったことを再認識した。
- ・日々の業務の中で、外部の人と接触することが多い。目的は持っているが具体的に言葉にならない場合もあり、 その真意を読んでいくことが大事だと感じた。

【ロジックモデル】 中間アウトカム 対象者 初期アウトカム 最終アウトカム 凡例: 今まで接点がな 他部署との接点 他の人や部署 部署間で連携が 事前に測定 かった職員と接 が増える の仕事を知る できる 点を持つ 終了直後に測定 а g q 事後(2ヵ月後)に測定 若手・管理職職 職場でのコミュ コミュニケー 員が互いの新た 新しい取り組み 管理職と職員と ニケーション 仕事にやりがい な一面を知る ション(対話) が牛まれやすく の接点が増える (対話)が を感じる による目的の共 なる 増える 有ができる m X u 自分を伝えるコ ミュニケーショ ン方法を知る 自分の考えや気 みんなで仕事に 対職場 新しい発想が生 持ちが受け入れ 意見を言いやす 取り組んでいる まれやすくなる 職場満足度向上 られるように伝 い環境になる 実感がわく 他人を理解する えられる ことができるよ うになる d 他人の意見に耳 仕事での お互いの信頼感 安心して働ける 一人一人が持つ を傾け、考えや 助け合いが が強まる イメージや認識 気持ちを理解で 増える に違いがあるこ きる 🔵 W e とを認識する t 「コミュニケー 異なるイメージ 問題や課題を多 や認識をすり合 ション」(対 面的に捉えられ わせることがで 話)に対する理 るようになる f 解が深まる きる 相手を理解する 潜在的な市民 市民との信頼感 二一ズをくみ取 市民満足度 ことができるよ 対市民 が強まる ることができる 向上 うになる 1 3 4